

## 議 会 報 告 会 報 告 書

開催日時	平成24年11月15日(木) 午後6時30分～午後7時50分		
開催場所	豊岡公民館		
出席議員	大門陽利	加藤 優	筒井 巖
	青田兆史	野沢一敏	
	代表者	大門陽利	司会者 加藤 優
	報告者	全 員	記録者 青田兆史・筒井 巖・野沢一敏
参加人数	19名		
報告内容	(別紙のとおり)		
主な意見・要望等	<p>《第1部「常任委員会報告について」》</p> <p>(松本氏)</p> <p>1. 日光ブランドについて推進するのは、合併して7年が経過しているので遅いのではと思うが、今後、日光ブランドについて、どのように確立していくのか伺う。</p> <p>(加藤優議員)</p> <p>1. 日光ブランドの内、観光面では全国で昨年が17位、その前が15位であったが、農産物などは、2百数十位であり差があります。市当局としては、これらのギャップをなくすのと同時に、総合的に日光のブランド品を確立するために、日光ブランド戦略室を設けました。</p> <p>議会としては、委員会等で先進地の事例等を参考にしながら、日光市のブランド力を上げるべく、市当局と議論していくつもりです。</p> <p>《第2部「議会定数・議員報酬について」》</p> <p>(秋元氏)</p> <p>1. 議会定数・報酬については市民が判断するのは難しい。資料によると人口と比較すると日光市の議員数は多いとは思いますが、広い市域を持つ日光市の特性を考えると各地域の意見を市政に反映させるためには30人でも少ないという考え方もある。議会が議論を尽くした結果、どのような判断をしていくのか興味がある。先ず議会の案を示して、市</p>		

民のご意見を聞くのが筋だと思う。

(加藤優議員)

1. 自治会連合会での議論についての説明。これまでの例をみますと、自治会連合会の議会定数等に関する意見書を受けて議会が議論を開始するという形が多かった。しかし、今回の状況をみますと、足尾地域、栗山地域及び藤原地域では「現状より議員定数を減らすと地域から議員を出し難くなってしまう。地域の声を市政に反映させ難くなってしまう。」という意見があり、日光市自治会連合会として一本化した意見書を提出することが見送られた。議員定数は議会が決めるものということを結論として議論が終了した。そこで、議会での議論を進める参考意見として用いるために、今回この議会報告会で各地区のご意見を聴取させて頂いている。最終的に議会定数・報酬については議会が責任を持って決めるが、議論を開始する前にこのような機会を設けた。

《第3部「その他（地域の課題）について」》

(町谷、秋元氏)

1. 放射性廃棄物の最終処分場の設置について、執行部（市長）は全く方向性を示していないが議会としてどのように考えているのか伺いたい。

(加藤優議員)

1. 日光クリーンセンターの焼却飛灰について、震災がれきの受入れについて説明する。議会としてはこの件に関して議論をしていない。

(秋元氏)

1. 流域下水道処理場の汚泥について、宇都宮市域の汚泥を町谷の処理場敷地内に搬入するという噂を聞いているが、町谷周辺の自治会では絶対反対という立場をとっているが議会ではどのように考えているのか伺いたい。

(加藤優議員)

1. 今後、議会としても現状の把握、状況の推移を注視しながら、更に議論を重ね、状況によっては県にも要望していく。

(小百 石川氏)

1. 8000 ベクレル以下の低レベル除染土砂、通学路の除染により今後

発生する除染土砂の仮置き場を探すように市から依頼されているがこのことについて議会としてはどのように考えているのか伺いたい。

(大門陽利議員)

1. 通学路の除染により今後発生する除染土砂の仮置き場については議会において議論していない。今後、議会としても検討していく。

(沼尾氏)

1. 日光産の米は、昨年、今年と出荷はできたが、売れ行きは悪くなっている。しかし、今年度は、放射能対策として塩化カリの補助があったので助かった。来年度も継続していただきたい。

(大門陽利議員)

1. 議会として、全会派で来年度の予算要望書の中で要望したところです。

日光市議会広報委員長 様

平成24年11月18日

上記のとおり報告いたします。

代表者 大門陽利